

武蔵野赤十字病院 消化器内科

1. 充実した専門研修

当院の特徴の一つは、専門指導医の充実であり、日本消化器病学会指導医 2 名、専門医 9 名、日本肝臓学会指導医 5 名、専門医 8 名、日本消化器内視鏡学会指導医 6 名、専門医 8 名、日本内科学会指導医 5 名、専門医 8 名が在籍し、層の厚い教育指導体制をとっています。当院は、診療は副部長をリーダーとするチーム制を取り入れており、上級医の指導のもとで後期研修 1 年目から上部・下部消化管内視鏡処置、胆道系処置、肝がんラジオ波焼灼治療、腹腔鏡検査などに取り組む体制をとっています。毎朝 8:25 に一日の診療、検査、処置を確認するミーティングからはじまり、夕方 17:30 までは「患者さんのための時間」として診療に専念します。



昨年度の診療実績は下記のとおりです。上部内視鏡 4771 件、上部処置内視鏡：止血術 119 件、食道静脈瘤治療 64 件、異物除去 14 件、下部内視鏡 2554 件、下部処置内視鏡：止血術 28 件、ポリープ切除 669 件、内視鏡的粘膜下層剥離術：上部 102 件（累積 1268 件）、下部 42 件（累積 269 件）、ERCP 212 件：総胆管結石碎石術 91 件、ドレーナージ 104 件、肝がん治療 341 例（累積 7300 件超）：ラジオ波焼灼療法 140 件（累積 3435 件）、肝動脈塞栓療法 121 件（累積 3548 件）、分子標的薬 67 例（累積 350 例）。



がん診療・化学療法に関しても他科との連携をしながら研修が可能です。日本がん治療認定医機構がん治療認定医などの資格を取得された先生もいます。豊富な人脈がありますので、国内の一流施設に紹介することができます。当院での研修後に国立がんセンター東病院、中央病院に送られた先生もいます。

2. 労働環境

チーム制を徹底することで、夜間勤務明けには必ず帰宅できます。土曜日、日曜日の勤務に対しては、平日に代休を取れます。

3. 専門医・学位の取得、および専攻生終了後のスタッフとしての継続勤務

診療は多忙ですが、消化器内科全般に渡る多彩な疾患を経験することができます。臓器や疾患にかたよらない、オールラウンドな消化器内科医の育成に力を入れています。年間の後期研修期間が終了する時点では、すべての消化器疾患における診療知識と診断・治療技術を会得でき、卒業後 8 年目までには専門医が取得できます。当院は、以下の学会の認定施設です：日本消化器病学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本内視鏡学会指導施設、日本超音波医学会専門医制度研修施設、日本内科学会教育病院。

また大学医局から派遣された先生でなくても、当院に在籍中しながら学位（医学博士）を取得することもできます。これまで、大学の医局には所属せずに当院で診療をしながら社会人大学院を卒業して学位を取得した先生が 4 名おり、さらに現在は 2 名が当院に勤務しながら社会人大学院に在籍しています。

また、5-7 年目の専攻研修が終了した後も、消化器内科のスタッフとして残ることが可能です。

4. 国内トップクラスの実績

泉、黒崎、土谷、安井、玉城、金子は学会のガイドライン作成委員（肝炎、肝硬変、肝がん、NASH）を務めており、中西は肝硬変の多施設共同研究に数多く参加しており、日本国内の診療の方向性を決める重要な責務を果たしています。また当院は東京都の肝疾患連携拠点病院に指定されており、肝疾患について国内で主導的役割を果たしています。板倉は肝疾患相談センター副センター長として東京都内の市民に対する啓発活動をリードしています。

非アルコール性脂肪肝炎、ウイルス性肝炎、肝臓に対する多くの新薬開発治験に参加しているため、治療の最先端を研修できます。肝疾患の診療実績は国内トップクラスであり、全国から紹介を受けています。最先端の肝がん治療機器を有しており、症例数も常に国内上位に入っています。中西を中心として内視鏡的治療実績を積み重ね、内視鏡的消化管粘膜下層剥離術は年間 100 例以上です。

5. 臨床研究

臨床研究活動にも熱心に取り組んでいます。多くの患者さんの診療結果を科学的に分析し、日本全国の患者さんの診療に役立つエビデンスを見出し、広く情報発信し、海外との共同研究も行っています。臨床研究の指導には、実績と自信があります。今まで研究をしたことがない卒後4年目の先生も国内学会の主題で発表し、また海外学会でも発表しています。すべての先生が当院で研修中に海外学会を経験し英語論文を執筆しています（学会発表、論文発表の実績は最後に記載してあります）。

AMED 研究班には、班員として黒崎、板倉、安井、金子が合計9班に参加しており、また黒崎は泉から研究代表者を引き継ぎ、全国赤十字病院を統括し、肝疾患の病態解明と疾患撲滅に向けての研究を主導し、また東京都の肝がん撲滅運動責任者を務めています。

6. 海外留学

当院から海外の一流施設に臨床や研究で留学した先生も多数います

- ① **Mayo Clinic** に臨床留学、現在は Cleveland Clinic の Staff Doctor
- ② **Tronto University** に臨床留学

University of Iowa Assistant Professor 田中智大

2007年から2010年まで、武蔵野赤十字病院消化器内科で後期研修をしていた田中と申します。その後2010年から2012年まで University of Toronto の消化器内科（肝移植内科プログラム）に臨床留学し、いったん帰国して東大病院に就職しました。そして2015年からは再び北米に道を求め、University of Iowa で指導医として勤務しています。

武蔵野赤十字病院での研修が上記のキャリアにどう影響したか、3つの観点からご紹介したいと思います。



1) 外の世界でチャレンジするマインドを与えてくれる

武蔵野赤十字病院の後期研修経験者は、非大学病院としては異例の海外留学率を誇っていると思います。これはひとえにアカデミックな教育体制のたまものに他ありません。日々の臨床

はエビデンスに基づく指導のもと進められ、毎週の抄読会や積極的な学会発表では後期研修医自らがその主体となって経験を積むことができます。私自身、研修2年目で肝臓学会総会のシンポジウムに演者として登壇しました。この時は土谷先生の付き切りの指導を受け、統計解析やプレゼンの仕方を丁寧に教わりました。また、後期研修医を積極的に海外の学会に参加させてくれることにも感謝しています。同じく研修2年目に参加したアメリカ肝臓学会は私のその後のキャリアを変えました。そこで見聞きしたこと・出会った人の影響を受けて最初の北米挑戦を決意したことを思い出します。

2) 海外で臨床医として働けるレベルのトレーニングを提供している

私は現在アメリカの大学病院で臨床スタッフとして後進の指導にもあたっています。当然、消化器肝臓内科の知識が不足していれば恥をかくわけですが。しかし幸いにして、今のところそうした事態には至らずに済んでいます。なぜか？それは武蔵野赤十字病院であらゆる消化器疾患の患者さんを担当し、内視鏡の基礎を叩き込まれ、画像診断のコツを伝授されたからです。もちろん後期研修3年間で学んだことだけで一人前になれるとは言いません。しかし、その後の医師としての生涯学習を続けるうえで、武蔵野赤十字の上級医の先生方の背中から多くを学ばせていただきました。常にアカデミックであること、教育的であること、最新のエビデンスに明るくあること。それさえ続けていけば、自分自身を常にアップデートできるからです。



3) 病院を離れてもメンタリングが続く

東大病院や University of Iowa への就職に際しては、推薦状や紹介の電話などの実務的な面、あるいは進路全般に対するアドバイスなど、武蔵野赤十字病院を離れたあとも継続して多大な助力を頂いています。また、今でも当時の上級医の先生、同期だった後期研修医とは学会でお会いするたびに酒宴に招いていただいています。当時の楽しい話（もちろん大変だっ

た話も)を肴に。

大学病院の後期研修で十分な臨床経験が積めるか心配、だけど市中病院だとアカデミックな活動ができないことを憂慮するという方、ぜひ武蔵野赤十字病院での後期研修を検討してみてはいかがでしょうか。



③ **Vienna University** に臨床研究留学、帰国後当院で活躍

ウィーン医科大学に留学して 消化器内科 土谷 薫

私は2015年4月から2017年3月までウィーン医科大学消化器内科に留学しました。現地では研究室で肝臓の切除例と移植例を用いた研究と週2回は臨床のカンファレンスに参加しました。カンファレンスはドイツ語だったので最初の6ヶ月間は画像所見位しか理解できませんでしたが平日はほぼ毎日ドイツ語学校に通い、1年位たつとおおよその内容は理解できるようになりました。何もかもが日本と異なり最初は苦労しましたが、医師以外の友人・知人もでき自分の価値観も変化しとても貴重な2年間でした。言語の壁があったため心細かったことも多く、日本で医師として暮らしている時にはきちんと把握できていなかった患者さんやご家族の心配や不安な気持ち・うまく言葉にできない状況がすこし理解できるようになった気がします。一般病院で勤務しながら海外留学させて頂くことは他の赤十字病院でも前例がなく、武蔵野赤十字病院消化器内科だからこそ可能であったと深く感謝しております。海外留学というすごく選ばれた優秀な人が対象になるイメージがありますが、私は40歳を過ぎて基礎研究経験もなく留学させて頂き、それでも多くのことを学び、医師としてのみならず人間として成長できました。ぜひ私達と一緒に消化器内科で働いて世界に羽ばたいて頂ければと思います。

④ **University College London** に基礎研究留学、帰国後当院で活躍

University College London 留学記 消化器内科 安井豊

「次は安井だな」。泉並木先生にエレベーター内で声をかけていただいたのが始まりでした。土谷先生がウィーンに旅立ってからすこし経ってからのことでした。「いつか行けたら」と漠然とした希望は持っていたものの、早くから留学志向が高かった先輩の梅田先生(Mayo Clinic)・同期の田中先生(Toronto University)が羽ばたいていった姿を見送ったことを思い返しつつ、自分にもチャンスがあるならば、と留学に向けた準備を始動しました。

それまでおよそ10年間、肝臓・消化器疾患の臨床・研究に携わりながら、病態の基礎の研究に触れる機会が欲しいと感じていました。特に、臨床研究で肝硬変の線維の量と発癌リスクの関連について研究していたこともあり、肝線維化の基礎研究に興味をもっていました。進行した肝硬変は不可逆的な変化であり、若くして命を落とされる方も目にしてきました。ウイルスに対する治療は近年目覚ましい進歩を遂げていますが、線維化の治療はまだまだ発展途上です。線維化の主役は肝星細胞という肝内のDisse腔という非常に狭いスペースに存在する細胞です。そこで、基礎研究を始めるにあたり泉先生のご助言を賜り日本の肝星細胞研究の第一人者である大阪市立大学の河田則史教授の研究室の門をたたくことにしました。河田教授は「半年くらい修行させていただいてその後海外に行きたいと思っています」というかなりわがままな申し出を快く引き受けて下さり、ロンドン大学(University College London)のMassimo Pinzani教授に紹介状を書いてくださりました。大阪での濃密な9か月間の後、ロンドン大学肝臓・消化器病研究室での研究生生活が始まりました。ロンドンで行った研究は肝線維の沈着がもたらす肝内微小環境の変化の一端であるmatrikineについての研究です。移植のレシビエントから摘出された硬変肝や、ドナーから摘出されたものの血流障害などにより移植できなかった正常肝など、ヒト肝臓を用いた研究ができるのが最大の強みでした。試薬や質量分析計とひたすら格闘する毎日であり、右も左もわからないうちからPinzani教授がいろいろな人に“*This is Yutaka from Japan. He is an expert of matrikines!*”と紹介して下さるのは結構なプレッシャーでしたが、同研究室でそれまで誰も手を付けていなかった研究の始動に立ちあえたことは非常に光栄でした。

大分前ですが、NHKで山中伸弥教授と渡邊謙さんの対談番組を見る機会があり、「海外に飛び出していくことは一種のロビー活動なんです。全く知らない人の書いた論文とちよつとでも



知っている人が書いた論文だったら知っている人の方が信じやすい」という印象的な山中先生の言葉がありました。自分がどこまでのロビー活動をできたかわかりませんが、武蔵野日赤を飛び出す2年間を与えてもらったことにより、自分の人生においてとても大切に感じる縁を大阪・イギリス・イタリアに得ることができました。改めてこのような機会を与えて下さった泉院長・黒崎副院長をはじめとした消化器内科の先生方に厚く御礼申し上げます。これを読んでいる専攻医を志す先生方も、是非機会があれば海外へ挑戦することを考えてみてください。想像以上に人生が豊になります。

⑤ **University of California San Diego** に現在留学中

サンディエゴへの留学 消化器内科 玉城信治

2020年4月から University of California, San Diego に留学しています。2020年5月現在留学の実情については多くを話せることはありませんのでここでは触れません。留学に際してまず一番の問題は留学先の決定ではないかと思います。私は自ら志望する留学先を探して、自ら応募して許可をもらうという方法でした。しかしこのプロセスに他施設の先生に協力していただければおそらく留学が出来なかったのではないかと思います。University of California, San Diego で留学をしたいと考えたときに、偶然ある大学の教授が留学先の Dr を親しくしていることを知りました。以前より学会、研究会、AMED 研究班などでご一緒になることがたびたびあった先生でしたので直接 University of California, San Diego に留学したいこと、先方の Dr を紹介してほしいこととお話ししたところ快諾していただきました。海外学会の際にミーティングをセットしていただき留学の許可をもらったという次第です。先方は積極的に受け入れをしているという状況ではなかったようですが、信頼できる教授からの紹介ということで許可をいただけようです。幸いとんとん拍子で決定することが出来たわけですが、教授にご紹介いただければおそらく成立しなかったと思います。これは継続して学会発表や論文発表を行ってきた業績を評価していただき、協力していただけたものと思います。2008年から武蔵野赤十字病院に勤務をしていますが、初めから留学に興味があったわけではなく、当然内視鏡や肝臓治療のスキルをいち早く身に着けたいと考えていました。数年である程度の基本手技が出来るようになった段階で次を考えたときに研究に興味を持ち、学会発表、論文発表を開始し、現在に至っています。武蔵野赤十字病院消化器内科では臨床だけでなく、日々の臨床の積み重ねによる臨床研究を行う基礎とそれに対する十分なサポート体制があることは、他の施設にはない特徴です。この環境で日々の臨床を行いながら研究を継続してきたことで、ご協力をいただき、今回のような幸運な機会をいただけたものと考えます。University of California, San Diego では臨床は離れますが、しばらく研究に集中し、新たな知識・技術を身に着け研究を発展させ、日本にその知識・技術を持ち帰れることを楽しみにしています。

7. 多彩な出身大学、医局とは関係のない採用

消化器内科は、山梨大学第一内科、東京医科歯科大学消化器内科から若手・中堅医師をローテ-

ターとして受け入れていますが、それ以外に医局人事とは関係なく当院で専門研修をされた先生が多数います。その出身大学は、日本医科大学、筑波大学、群馬大学、北海道大学、北京大学、杏林大学、滋賀医科大学、聖マリアンナ医科大学、名古屋大学、徳島大学と、様々です。医局人事ではないので、専攻研修が終了した後に、武蔵野赤十字病院消化器内科のスタッフとして残った先生も多数います。結果として、消化器内科スタッフの出身大学は、東京医科歯科大学、筑波大学、群馬大学、北海道大学、日本医科大学、千葉大学、順天堂大学など多彩であり、特定の大学に偏らない構成です。我々は特定の大学、学閥にはとらわれません。門戸は常に開かれています。

8. どのような先生に来てほしいか

消化器全般にわたり充実した研修を希望される先生、一人一人の患者さんを幸せにするための診療に労をいとわない熱心な先生が来てくれることを期待します。加えて、診療から発生した Research Question を解決する臨床研究に興味がある先生も歓迎します。意欲のある先生方の臨床や研究でのキャリアアップを支援します。

9. 後期研修の体験談

① 桐野 桜

武蔵野赤十字病院 消化器内科 後期研修医 3 年目（卒後 5 年目）の桐野 桜と申します。当科での研修の特徴は 1. 豊富な症例数 2. 肝疾患拠点病院ならではの専門加療 3. 臨床研究・学術活動の充実にあると思います。

1. 豊富な症例数 当院は地域の中核的急性期病院を担っており、周辺医療施設からの転送依頼や救急搬送が非常に多い病院です。そのため週 2 回担当する救急当番は多忙であり、1 枠で 5 - 10 人程度の緊急症例を担当することになります。肝疾患分野で有名な病院ですが、救急対応疾患は吐血、黄疸、胆管炎など多岐に渡り、内視鏡的止血術や ERCP などの緊急処置から入院までを主実施医・主治医として担当します。また日常診療の上部・下部消化管内視鏡や造影超音波検査の件数も十分にあります。赴任当初は、対応しきれずに先輩や指導医の先生方に泣き言をいう日々が続きました。しかし最近では何とか対応できており、実力がついてきているという実感があります。また、それでも対応が困難な時には、周囲が気付いてサポートしてくれるチームワークもあります。決して楽な職場ではないと思いますが、臨床力をつける環境としてとても良い研修環境と考えています。

2. 肝疾患拠点病院ならではの専門加療 当院は、東京都の肝疾患連携拠点病院であり肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術や分子標的薬、ウイルス肝炎に対する抗ウイルス治療症例といった専門的加療が必要な症例が紹介されます。特にラジオ波焼灼術は指導医のもと、卒後 3・4 年目から段階的に主実施医として担当することができる日本でも有数の施設です。また、肝癌の分子標的薬は近年新規薬剤が多数承認されており、症例を経験・カンファレンスで共有することにより適切なマネジメントを学ぶことが出来ます。

3. 臨床研究・学術活動の充実 当院には肝疾患拠点病院として豊富な症例を経験できる

特徴から、エビデンスを構築・発信する病院としての伝統があります。泉院長・黒崎副院長をはじめとする肝臓領域を牽引する先生方の指導の下、臨床研究を行い、学会発表や論文発表を行っています。当科で検討したデータが、日常臨床に活かされていく過程に参加でき、貴重な経験と感じています。また後期研修医も発表の機会があり、私は 3・4 年目の 2 年間で国内学会 5 回、海外学会 2 回発表する機会をいただき、英語論文も発表することが出来ました。

世の中に後期研修病院は沢山ありますが、武蔵野赤十字病院 消化器内科でしかできない研修があります。忙しい中でも充実した研修であり、ぜひ一緒に研修できることを楽しみにしています。



② 専門研修の体験談 稲田賢人

内科専攻医 2 年目（卒後 4 年目）の稲田賢人と申します。赴任当初の 2019 年 4 月から 7 月まで総合診療科で研修させていただき、8 月より消化器内科に移り、専門研修を続けています。

消化器内科での研修を始めて 1 年弱になりますが、メリットが多くあると感じていますので、以下に述べさせていただきます。

まず何より、消化器内科の医師の人数が多く、困ったときに相談しやすい環境であることです。主治医として主体的に診療させていただく中で、上級医の先生方に手厚くサポートしていただける点は非常に助かっています。年次の近い若手の先生方から、10年目以上の中堅の先生方、そして副部長・部長の先生方と層が厚く、カンファレンスでも専攻医の診療を誤った方向に向かわせないような温かい配慮を感じます。

そして、救急車の台数が多いことはさることながら、近隣の病院からの信頼も厚く、多くの患者様が紹介されて来院されます。3年目では月曜日と金曜日の午後の救急当番を担当していましたが、かなりの数の患者様を診させていただき、現在の診療の糧になっていると思います。手技に関しても3年目は上部消化管内視鏡、4年目は下部消化管内視鏡をメインに据え、段階を追ってステップアップできる環境を用意してもらっています。内視鏡緊急処置も多く、休日・夜間のオンコールではバックアップの先生についていただきながら止血処置を行うことができます。まだまだ未熟ではありますが、少しずつできることが増えていく喜びを感じています。

また、当院研修での大きな特徴として、肝臓に関わる手技が多く、造影エコーや肝生検のみならず、他院では件数が少なくなかなか若手が執刀できないラジオ波焼灼術に、3年目から携わらせていただけることがあります。肝疾患に強くサポート体制の充実した当院ならではのメリットではないかと考えます。

がん診療にも力を入れており、放射線科や緩和ケア科などの他科と連携しながら、各種化学療法をはじめ、主科として治療に当たることができます。手術が必要な場合には、外科にもお願いしやすい環境です。

さらに、外来診療も3年目の10月から開始しています。事前に予習をし、限られた時間でその場でdecision makingを求められる状況もあって一筋縄ではいかないですが、外来で継続して診させていただくことには、主治医としての大きなやりがいを感じます。

目まぐるしく回る日々に大変だと感じる時も多いですが、その分実力もついてきていると信じて、現在も研鑽を積んでいるところです。責任感を持ちつつ、安全に診療に取り組むことができていると思います。

日頃関わる看護師、薬剤師、栄養士、放射線技師、臨床検査技師、医療秘書をはじめとしたスタッフの方々も非常に優しく、コミュニケーションの面でストレスを感じることはほとんどありません。お互いを尊敬しながら患者さんのために一生懸命になっている環境で、居心地良く仕事をすることができています。

これから消化器内科として専攻医の道を歩み始めようと思っている皆様に、当院での研修をお勧めします。来年度皆様と一緒に働くことができることを心待ちにしています。

10. 国内学会発表（2019年度）

1. 肝癌治療後C型肝炎に対する抗ウイルス療法後の肝癌再発と生存率 "眞柴 寿枝(松山赤十字病院 肝臓・胆のう・膵臓内科), 佐藤 香織, 青野 通子, 越智 裕紀, 畔元 信明, 横田 智行, 黒崎 雅之, 泉 並木, 上甲 康二" 日本消化器病学会雑誌

- (0446-6586)116 巻臨増大会 Page A846(2019.11)
2. ダクラタスビル・アスナプレビル療法 SVR 後の臨床経過 多施設共同後方視的コホート研究 " 木村 浩之(京都第一赤十字病院 消化器内科), 黒崎 雅之, 藤井 秀樹, 長谷部 千登美, 赤羽 武弘, 小島 裕治, 内田 靖, 小橋 春彦, 森 奈美, 小川 力, 上甲 康二" 日本消化器病学会雑誌(0446-6586)116 巻臨増大会 Page A845(2019.11)
 3. 血清マーカーを用いた NAFLD および ALD におけるハイリスク症例の同定 "玉城 信治, 樋口 麻友, 黒崎 雅之, 桐野 桜, 大澤 玲於奈, 王 婉, 岡田 真央, 高浦 健太, 金子 俊, 土谷 薫, 中西 裕之, 板倉 潤, 高橋 有香, 泉 並木" 日本消化器病学会雑誌 (0446-6586)116 巻臨増大会 Page A844(2019.11)
 4. 潰瘍性大腸炎における 5ASA 不耐は予後不良因子となる "藤井 俊光(東京医科歯科大学 消化器内科), 日比谷 秀爾, 齊藤 詠子, 竹中 健人, 清水 寛路, 長堀 正和, 大塚 和朗, 黒崎 雅之, 矢内 常人, 泉 並木, 渡辺 守" 日本消化器病学会雑誌 (0446-6586)116 巻臨増大会 Page A775(2019.11)
 5. 門亢症に対する診断モダリティの進歩 MR エラストグラフィによる食道静脈瘤の予測 "樋口 麻友, 黒崎 雅之, 大澤 玲於奈, 岡田 真央, 王 婉, 高浦 健太, 前屋舗 千明, 金子 俊, 玉城 信治, 中西 裕之, 土谷 薫, 板倉 潤, 泉 並木" 日本門脈圧亢進症学会雑誌 (1344-8447)25 巻 3 号 Page97(2019.09)
 6. 門亢症を伴う肝硬変に対する薬物療法の進歩～腹水・脳症・血栓など～ 肝性腹水・浮腫を合併する非代償性肝硬変に対する tolvaptan 使用による予後と、予後予測因子についての検討 " 大澤 玲於奈, 中西 裕之, 岡田 真央, 王 婉, 樋口 麻友, 高浦 健太, 前屋舗 千明, 金子 俊, 玉城 信治, 土谷 薫, 板倉 潤, 黒崎 雅之, 泉 並木" 日本門脈圧亢進症学会雑誌(1344-8447)25 巻 3 号 Page67(2019.09)
 7. ルストロンボパグの臨床試験併合解析による安全性の検討 "黒崎 雅之(武蔵野赤十字病院), 泉 並木, 加納 武, 落合 俊充, Violi Francesco, Shrestha Pomy, Brown Jr. Robert Stephan" 肝臓(0451-4203)60 巻 Suppl.2 Page A699(2019.10)
 8. 肝硬変患者における L-carnitine の脳機能、肝疾患関連イベント、長期予後に関する有用性 " 早川 優香, 中西 裕之, 大澤 玲於奈, 桐野 桜, 渡壁 慶也, 王 婉, 岡田 真央, 清水 孝夫, 樋口 麻友, 高浦 健太, 金子 俊, 玉城 信治, 安井 豊, 上田 研, 板倉 嘉江, 土谷 薫, 板倉 潤, 高橋 有香, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.2 Page A698(2019.10)
 9. DAA 治療後の肝発癌関連因子の検討 "高浦 健太, 黒崎 雅之, 泉 並木, 渡壁 慶也, 岡田 真央, 王 婉, 清水 孝夫, 樋口 麻友, 金子 俊, 玉城 信治, 安井 豊, 中西 裕之, 土谷 薫, 板倉 潤, 高橋 有香" 肝臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.2 Page A659(2019.10)
 10. C 型慢性肝炎・代償性肝硬変(2 型ナীব例)に対するグレカプレビル・ピブレンタスビルのリアルワールドにおける有効性と安全性 全国多施設共同研究 "小橋 春彦(岡山赤十字病院 肝臓内

- 科), 黒崎 雅之, 上甲 康二, 丸澤 宏之, 早田 哲郎, 長谷部 千登美, 辻 恵二, 木村 浩之, 小川 力, 古田 晃一郎, 近藤 雅彦, 田中 克明, 赤羽 武弘, 満田 朱理, 小島 裕治, 松下 知路, 内田 靖, 重野 賢也, 井手 康史, 泉 並木" 肝 臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.2 Page A655(2019.10)
11. ゲノタイプ 1 型の C 型慢性肝炎・代償性肝硬変の初回治療における Glecaprevir/Pibrentasvir の治療効果と安全性について "盛田 篤広(京都第二赤十字病院 消化器内科), 宇野 耕治, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝 臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.2 Page A655(2019.10)
 12. B 型肝炎診療;未来への展望を踏まえた現在の在り方 核酸アナログ長期投与中の B 型慢性肝疾患における肝発癌リスク "金子 俊, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝 臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.2 Page A621(2019.10)
 13. 長期生存を目指した肝がん診療の最前線 切除不能肝細胞癌に対する lenvatinib を用いた治療戦略 "土谷 薫, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝 臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.2 Page A611(2019.10)
 14. 内視鏡治療後消化管出血への対策 ESD 後出血予防策と出血危険因子に関する検討 "中西 裕之, 黒崎 雅之, 泉 並木" Gastroenterological Endoscopy(0387-1207)61 巻 Suppl.2 Page2032(2019.10)
 15. 慢性肝疾患の自然史を俯瞰した治療と病態モニタリング 黒崎 雅之 日本消化器病学会甲信越支部例会抄録集 65 回 Page101(2019.11)
 16. 経時的肝生検病理変化を追えた PBC-AIH overlap 症候群の一例 "中野 悠, 関口 修平, 金子 俊, 稲田 賢人, 山下 洸司, 桐野 桜, 大澤 玲於奈, 早川 優香, 岡田 真央, 王 婉, 樋口 麻友, 高浦 健太, 前屋舗 千明, 玉城 信治, 土谷 薫, 中西 裕之, 板倉 潤, 松永 光太郎, 黒崎 雅之, 泉 並木" 日本消化器病学会関東支部例会プログラム・抄録集 357 回 Page35(2019.12)
 17. B 型肝炎治療の現状と新たな治療戦略 エンテカビル長期内服からテノホビルへの切り替えによる治療効果 "玉城 信治, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝 臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.3 Page A768(2019.11)
 18. 当院における C 型ウイルス肝炎透析患者に対するグレカプレビル/ピブレンタスビルの効果 "久山 環(武蔵野赤十字病院 腎臓内科), 坂下 祥太, 小林 伸暉, 平澤 卓, 笠木 祐里, 黒崎 雅之, 泉 並木, 安藤 亮一" 日本透析医学会雑誌 (1340-3451)52 巻 Suppl.1 Page761(2019.05)
 19. ゲノタイプ 1 型の C 型慢性肝炎・肝硬変の初回治療における Glecaprevir/Pibrentasvir の治療効果と安全性について "盛田 篤広(京都第二赤十字病院 消化器内科), 宇野 耕治, 黒崎 雅之, 泉 並木, 全国赤十字病院肝疾患ネットワーク" 日本消化器病学会雑誌 (0446-6586)116 巻臨増総会 Page A449(2019.03)
 20. 非ウイルス性慢性肝炎における肝硬度高値症例のスクリーニング "玉城 信治, 樋口 麻友, 黒

- 崎 雅之, 桐野 桜, 大澤 玲於奈, 渡壁 慶也, 王 婉, 岡田 真央, 清水 孝夫, 金子 俊, 土谷 薫, 中西 裕之, 板倉 潤, 泉 並木"日本消化器病学会雑誌(0446-6586)116 巻臨増総会 Page A421(2019.03)
21. 当院における進行肝臓癌に対するレゴラフェニブの治療成績および効果関連因子の検討 "王 婉, 土谷 薫, 安井 豊, 桐野 桜, 大澤 玲於奈, 渡壁 慶也, 岡田 真央, 清水 孝夫, 樋口 麻友, 高浦 健太, 金子 俊, 玉城 信治, 中西 裕之, 板倉 潤, 高橋 有香, 黒崎 雅之, 泉 並木" 日本消化器病学会雑誌 (0446-6586)116 巻臨増総会 Page A413(2019.03)
 22. 80 歳以上の進行肝細胞癌患者に対する分子標的薬治療の実際 抗腫瘍効果・忍容性・2 次治療への移行率の検討 "土谷 薫, 金子 俊, 王 婉, 安井 豊, 清水 孝夫, 桐野 桜, 大澤 玲於奈, 渡壁 慶也, 岡田 真央, 樋口 麻友, 高浦 健太, 玉城 信治, 中西 裕之, 板倉 潤, 高橋 有香, 黒崎 雅之, 泉 並木"日本消化器病学会雑誌(0446-6586)116 巻臨増総会 Page A413(2019.03)
 23. 肝細胞癌に対する分子標的治療薬におけるサルコペニアの臨床的意義 "岡田 真央(武蔵野赤十字病院), 中西 裕之, 黒崎 雅之, 桐野 桜, 大澤 玲於奈, 渡壁 慶也, 王 婉, 清水 孝夫, 樋口 麻友, 高浦 健太, 金子 俊, 玉城 信治, 安井 豊, 土谷 薫, 板倉 潤, 高橋 有香, 泉 並木" 日本消化器病学会雑誌(0446-6586)116 巻臨増総会 Page A412(2019.03)
 24. 肝疾患における画像診断の新展開 MR elastography による SVR 後の発癌予測 "樋口 麻友, 黒崎 雅之, 泉 並木" 日本消化器病学会雑誌(0446-6586)116 巻臨増総会 Page A211(2019.03)
 25. 難治性 C 型肝炎の病態解明と治療戦略 C 型肝炎に対する複数回 DAAs 併用療法不成功例における薬剤耐性変異 全国肝疾患診療連携拠点病院を含む多施設データ解析から "板倉 潤, 黒崎 雅之, 泉 並木" 日本消化器病学会雑誌(0446-6586)116 巻臨増総会 Page A206(2019.03)
 26. 門脈圧亢進症診療の新しい潮流 肝性浮腫・腹水に対する tolvaptan 治療効果予測および併用従来利尿薬の腎機能への影響についての検討 "大澤 玲於奈, 黒崎 雅之, 泉 並木" 日本消化器病学会雑誌(0446-6586)116 巻臨増総会 Page A134(2019.03)
 27. C 型肝炎ウイルス駆除後の肝発癌の現状と対策 当院における C 型肝炎 SVR 後の発癌リスク因子の検討 "高浦 健太, 黒崎 雅之, 泉 並木" 日本消化器病学会雑誌 (0446-6586)116 巻臨増総会 Page A122(2019.03)
 28. 肝硬変の診断と治療の最前線 近赤外線光トポグラフィによるミニマル肝性脳症診断と L-carnitine 治療介入の臨床的意義についての検討 "中西 裕之, 黒崎 雅之, 泉 並木" 日本消化器病学会雑誌(0446-6586)116 巻臨増総会 Page A69(2019.03)
 29. B 型肝炎治療におけるベストエフォートの現状と課題 テノホビル製剤による核酸アナログ切り替えの有用性 "金子 俊, 黒崎 雅之, 泉 並木" 日本消化器病学会雑誌

(0446-6586)116 巻臨増総会 Page A57(2019.03)

30. 全国多施設共同研究によるジェノタイプ 2 型 C 型肝炎に対するソホスブビル/レジパスビルの治療の効果 "辻 恵二(広島赤十字原爆病院), 黒崎 雅之, 泉 並木, 森 奈美, 高木 慎太郎, 福原 崇之, 赤羽 武弘, 伊藤 博, 葛西 豊高, 日下部 篤宣, 木村 浩之, 丸澤 宏之, 内田 靖" 肝臓(0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A514(2019.04)
31. ゲノタイプ 1 型の C 型慢性肝炎・肝硬変の初回治療における Glecaprevir/Pibrentasvir の治療効果と安全性について "盛田 篤広(京都第二赤十字病院), 宇野 耕治, 黒崎 雅之" 肝臓(0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A513(2019.04)
32. ウイルス性慢性肝疾患における非侵襲的肝硬変診断の有用性と限界 "板倉 潤, 瀬戸山 博子, 黒崎 雅之, 考藤 達哉, 泉 並木" 肝 臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A443(2019.04)
33. ミニマル肝性脳症における L-carnitine 治療介入の臨床的意義 近赤外線光トポグラフィによる検討 "中西 裕之, 黒崎 雅之, 大澤 玲於奈, 桐野 桜, 渡壁 慶也, 王 婉, 岡田 真央, 清水 孝夫, 樋口 麻友, 高浦 健太, 金子 俊, 玉城 信治, 野田 隆政, 土谷 薫, 板倉 潤, 高橋 有香, 泉 並木" 肝 臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A437(2019.04)
34. 分子標的薬治療を施行した BCLC stage B 肝癌の治療成績と今後の課題 早期に分子標的薬を導入すべき症例の選別 "土谷 薫, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝 臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A428(2019.04)
35. 実臨床におけるソラフェニブ-レゴラフェニブ sequential 療法の実際および 3rd-line agent としてのレンバチニブの有用性 "王 婉(武蔵野赤十字病院), 土谷 薫, 安井 豊, 桐野 桜, 大澤 玲於奈, 渡壁 慶也, 岡田 真央, 清水 孝夫, 猪野 麻友, 高浦 健太, 金子 俊, 玉城 信治, 中西 裕之, 板倉 潤, 高橋 有香, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝 臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A427(2019.04)
36. C 型慢性肝炎または C 型代償性肝硬変患者に対するグレカプレビル水和物/ピブレンタスビル配合錠の使用成績調査 中間報告 "持田 智(埼玉医科大学), 松崎 寿久, 川名 克芳, 伊藤 亜友美, 松井 宗隆, 黒崎 雅之" 肝 臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A423(2019.04)
37. 肝癌に対する Lenvatinib 投与中の筋量変化 "岡田 真央(武蔵野赤十字病院), 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝臓(0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A379(2019.04)
38. C 型慢性肝炎における食道胃静脈瘤の非侵襲的予測 "渡壁 慶也(武蔵野赤十字病院), 玉城 信治, 桐野 桜, 大澤 玲於奈, 王 婉, 岡田 真央, 清水 孝夫, 猪野 麻友, 高浦 健太, 金子 俊, 土谷 薫, 中西 裕之, 板倉 潤, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝 臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A365(2019.04)
39. 肝性腹水・浮腫に対する tolvaptan の治療効果と抗利尿ホルモン、尿中 AQP2 値の関連性についての検討 "大澤 玲於奈, 中西 裕之, 渡壁 慶也, 桐野 桜, 岡田 真央, 王 婉, 清

- 水 孝夫, 樋口 麻友, 高浦 健太, 金子 俊, 玉城 信治, 土谷 薫, 板倉 潤, 高橋 有香, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝臓(0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A320(2019.04)
40. Vp4 の高度脈管浸潤・骨転移を有する進行肝細胞癌に対してレンパチニブが奏功した一例 " 桐野 桜, 土谷 薫, 大澤 玲於奈, 渡壁 慶也, 清水 孝夫, 岡田 真央, 王 婉, 樋口 麻友, 高浦 健太, 金子 俊, 玉城 信治, 安井 豊, 中西 裕之, 板倉 潤, 高橋 有香, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝臓(0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A306(2019.04)
41. 肝画像診断の進歩:現状の把握と今後の展望 C 型慢性肝疾患における MR エラストグラフィによる肝線維化評価とウイルス排除後の発がん予測 "樋口 麻友(武蔵野赤十字病院), 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝臓(0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A229(2019.04)
42. DAA 治療不成功例:ウイルス側と宿主側要因の解析 Genotype2C 型慢性肝炎に対する SOF+RBV 療法不成功の要因と不成功例に対する GLE+PIB 再治療の検討 "日下部 篤宣(名古屋第二赤十字病院 消化器内科), 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A188(2019.04)
43. SVR 後 C 型肝疾患の長期予後:肝発癌、QOL、肝外疾患への影響 DAA 治療による肝機能の変化および肝発癌関連因子の検討 "高浦 健太(武蔵野赤十字病院), 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝臓(0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A100(2019.04)
44. B 型肝炎の抗ウイルス療法:肝発癌の制御を目指した治療の最前線 B 型慢性肝疾患に対する核酸アナログ長期投与における発癌リスク因子の検討 "金子 俊, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝臓(0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A71(2019.04)
45. B 型肝炎の抗ウイルス療法:肝発癌の制御を目指した治療の最前線 B 型慢性肝疾患に対するテノホビルアラフェナミドの治療効果と副作用に関する多施設共同研究 "長谷部 千登美(旭川赤十字病院 消化器内科), 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A69(2019.04)
46. C 型肝炎の抗ウイルス療法:DAA 治療の最前線と今後の課題 C 型肝炎に対する DAA 併用療法不成功例における薬剤耐性変異の現況 全国肝疾患診療連携拠点病院を含む多施設データ解析 "板倉 潤, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝臓 (0451-4203)60 巻 Suppl.1 Page A61(2019.04)
47. Biomarker としてのソナザイド造影超音波所見の意義 組織分化度と臨床経過の検討 "大澤 玲於奈, 土谷 薫, 高田 ひとみ, 玉城 信治, 安井 豊, 中西 裕之, 板倉 潤, 黒崎 雅之, 榎本 信幸, 泉 並木" 超音波医学 (1346-1176)46 巻 Suppl. Page S543(2019.04)
48. 肝機能障害を契機に診断された Basedow 病の 1 例 "塚原 啓司, 金子 俊, 高浦 健太, 早川 恵理, 杉山 徹, 土谷 薫, 中西 裕之, 板倉 潤, 黒崎 雅之, 泉 並木" 日本内科学会関東地方会 651 回 Page33(2019.06)
49. C 型慢性肝炎症例のウイルス排除後に発癌した 1 例と経過良好な 1 例の比較 "内山 敬太, 玉城 信治, 樋口 麻友, 桐野 桜, 大澤 玲於奈, 渡壁 慶也, 清水 孝夫, 岡田 真央,

王 婉, 高浦 健太, 金子 俊, 中西 裕之, 土谷 薫, 板倉 潤, 高橋 有香, 黒崎 雅之, 泉 並木" 日本消化器病学会関東支部例会プログラム・抄録集 353 回 Page46(2019.02)

50. インフリキシマブ投与中に Guillain-Barre 症候群を発症したクローン病の一例 "桐野 桜, 金子 俊, 黒崎 雅之, 大澤 玲於奈, 渡壁 慶也, 王 婉, 岡田 真央, 樋口 麻友, 清水 孝夫, 高浦 健太, 玉城 信治, 中西 裕之, 土谷 薫, 板倉 潤, 高橋 有香, 藤井 俊光, 泉 並木" 日本消化器病学会関東支部例会プログラム・抄録集 353 回 Page38(2019.02)

11. 海外学会発表 (2019 年)

1. NS5A resistance profile of genotype 1b virological failures that impacts outcome of re-treatment by glecaprevir/pibrentasvir: Nation-wide real world study Masayuki Kurosaki, Jun Itakura, Namiki Izumi 欧州肝臓学会 2019
2. Factors associated with treatment failure with SOF+RBV in patients with genotype 2 chronic hepatitis C and consideration of retreatment with GLE+PIB in patients not responding to SOF+RBV Atsunori Kusakabe, Masayuki Kurosaki, Jun Itakura, Kouji Joko, Takehiro Akahane, Haruhiko Kobashi, Tetsuro Sohda, Keiji Tsuji, Hiroyuki Matusawa, Hiroyuki Kimura, Ryoichi Narita, Koichiro Furuta, Namiki Izumi 欧州肝臓学会 2019
3. Real-world efficacy of elvasvir and grazoprevir for hepatitis C virus (genotype 1): A nationwide, multicenter study by the Japanese Red Cross Hospital Liver Study Group Toshie Mashiba¹, Kouji Joko, Hironori Ochi, Ryo Yano, Kaori Sato, Yusuke Okujima, Michiko Aono, Nobuaki Azemoto, Tomoyuki Yokota, Masayuki Kurosaki, Namiki Izumi 欧州肝臓学会 2019
4. Efficacy and safety of switching therapy from tenofovir disoproxil fumarate to tenofovir alafenamide for hepatitis B virus infection Shun Kaneko, Masayuki Kurosaki, Nobuharu Tamaki, Jun Itakura, Sakura Kirino, Keiya Watakabe, Leona Osawa, Mao Okada, Wang Wan, Takao Shimizu, Mayu Higuchi, Kenta Takaura, Yutaka Yasui, Kaoru Tsuchiya, Hiroyuki Nakanishi, Yuka Takahashi, Namiki Izumi. 欧州肝臓学会 2019
5. A nationwide multicenter study in Japanese patients treated with lenvatinib in real world practice Kaoru Tsuchiya, Masayuki Kurosaki, Shun Kaneko, Toru Kimura, Hiroyuki Marusawa, Hirotaka Arai, Takehiko Abe, Hiroyuki Kimura, Keiji Tsuji, Koichiro Furuta, Chikara Ogawa, Ryoichi Narita, Yuji Kojima, Takehiro Akahane, Yasushi Uchida, Hideo Yoshida, Haruhiko Kobashi, Atsunori Kusakabe, Kouji Joko, Namiki Izumi. 欧州肝臓学会 2019
6. Lusutrombopag is a safe treatment option for thrombocytopenia in patients with chronic liver disease undergoing an invasive procedure: Pooled safety analysis from 3 studies Nezam Afdhal, Robert Brown, Namiki Izumi, Takeshi Kano, Toshimitsu Ochiai, Masayuki Kurosaki, Francesco Violi, Pomy Shrestha. 欧州肝臓学会 2019

7. Prediction of hepatocellular carcinoma development using liver stiffness after sustained virological responses by magnetic resonance elastography in patients with chronic hepatitis C Nobuharu Tamaki, Mayu Higuchi, Masayuki Kurosaki, Shun Kaneko, Yutaka Yasui, Kaoru Tsuchiya, Hiroyuki Nakanishi, Jun Itakura, Namiki Izumi. 欧州肝臓学会 2019
8. Non-invasive prediction of gastroesophageal varices by serum wisteria floribunda agglutinin positive Mac-2 binding protein and FIB-4 index in chronic hepatitis C Keiya Watakabe, Nobuharu Tamaki, Sakura Kirino, Leona Osawa, Wang Wan, Mao Okada, Takao Shimizu, Mayu Higuchi, Kenta Takaura, Shun Kaneko, Kaoru Tsuchiya, Hiroyuki Nakanishi, Jun Itakura, Masayuki Kurosaki, Namiki Izumi 欧州肝臓学会 2019
9. Comparison of survival rates between direct acting antiviral (DAA) therapy and interferon (ifn) therapy after curative treatment of hepatitis c virus (hcv)-related hepatocellular carcinoma (hcc) Kouji Joko, Toshie Mashiba, Hironori Ochi, Hironobu Saneto, Yuri Tabo, Kaori Sato, Michiko Aono, Nobuaki Azemoto, Tomoyuki Yokota, Kaoru Tsuchiya, Masayuki Kurosaki and Namiki Izumi, 米国肝臓学会 2019
10. L-carnitine improves minimal hepatic encephalopathy, reduces liver related hospitalization events and contributes to better prognosis Hiroyuki Nakanishi, Masayuki Kurosaki, Leona Osawa, Kento Inada, Kouji Yamashita, Sakura Kirino, Yuka Hayakawa, Syuhei Sekiguchi, Mao Okada, Wan Wang, Mayu Higuchi, Kenta Takaura, Chiaki Maeyashiki, Shun Kaneko, Nobuharu Tamaki, Kaoru Tsuchiya, Jun Itakura, Yuka Takahashi and Namiki Izumi 米国肝臓学会 2019
11. Serum wisteria floribunda agglutinin-positive mac-2 binding protein after eradication of hepatitis c virus is superior to alpha-fetoprotein to define patients at high and low risk of hepatocellular carcinoma development during the long-term course. Leona Osawa, Nobuharu Tamaki, Masayuki Kurosaki, Sakura Kirino, Kouji Yamashita, Yuka Hayakawa, Syuhei Sekiguchi, Wan Wang, Mao Okada, Mayu Higuchi, Kenta Takaura, Chiaki Maeyashiki, Shun Kaneko, Yutaka Yasui, Kaoru Tsuchiya, Hiroyuki Nakanishi, Jun Itakura, Namiki Izumi 米国肝臓学会 2019
12. Page-b has high predictability of the risk of developing hepatocellular carcinoma in japanese with chronic hepatitis b Sakura Kirino, Nobuharu Tamaki, Shun Kaneko, Kento Inada, Kouji Yamashita, Leona Osawa, Yuka Hayakawa, Syuhei Sekiguchi, Mao Okada, Wan Wang, Mayu Higuchi, Kenta Takaura, Chiaki Maeyashiki, Yutaka Yasui, Hiroyuki Nakanishi, Kaoru Tsuchiya, Jun Itakura, Yuka Takahashi, Masayuki Kurosaki and Namiki Izumi, 米国肝臓学会 2019
13. Clinical outcome of tyrosine kinase inhibitors in the geriatric patients with unresectable hepatocellular carcinoma Kaoru Tsuchiya, Masayuki Kurosaki, Shun Kaneko, Wan Wang, Sakura Kirino, Nobuharu Tamaki, Yutaka Yasui, Hiroyuki Nakanishi, Jun Itakura and Namiki Izumi, 米国肝臓学会 2019
14. Features of resistance-associated substitutions after failure of multiple regimens with direct acting antivirals in japan Jun Itakura, Masayuki Kurosaki, Namiki Izumi 米国肝臓学会 2019
15. Re-treatment with glecaprevir/pibrentasvir in hepatitis c patients with previous failure to directacting

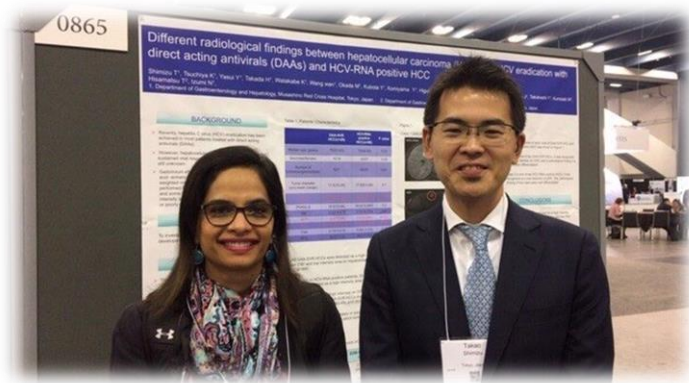
antiviral treatment: a nation-wide registry study Masayuki Kurosaki, Jun Itakura and Namiki Izumi, 米国肝臓学会 2019

16. The Risk Factor of Developing Hepatocellular Carcinoma in Chronic Hepatitis B Patients with Long-term Administration of Oral Antiviral Therapy Shun Kaneko, Masayuki Kurosaki, Sakura Kirino, Leona Osawa, Keiya Watakabe, Mao Okada, Wan Wang, Takao Shimizu, Mayu Higuchi, Kenta Takaura, Nobuharu Tamaki, Yutaka Yasui, Kaoru Tsuchiya, Hiroyuki Nakanishi, Jun Itakura, Yuka Takahashi, Namiki Izumi アジア太平洋肝臓学会 APASL 2019
17. CLINICAL OUTCOME AND BIOMARKERS IN JAPANESE PATIENTS TREATED WITH REGORAFENIB IN REAL WORLD PRACTICE Kaoru Tsuchiya* , Wang Wan, Shun Kaneko, Nobuharu Tamaki, Yutaka Yasui, Hiroyuki Nakanishi, Jun Itakura, Masayuki Kurosaki, Namiki Izumi 国際肝癌学会 ILCA 2019
18. Predictive value of changes in plasma vascular endothelial growth factor at eight weeks after lenvatinib administration in patients with unresectable hepatocellular carcinoma Kaoru Tsuchiya, Masayuki Kurosaki, Shun Kaneko, Yutaka Yasui, Sakura Kirino, Shuhei Sekiguchi, Kento Inada, Koji Yamashita, Yuka Hayakawa, Mayu Higuchi, Kenta Takaura, Chiaki Maeyashiki, Nobuharu Tamaki, Hiroyuki Nakanishi, Jun Itakura, Namiki Izumi 米国臨床腫瘍学会 ASCO 2019
19. Sequential treatment with sorafenib (SOR) followed by regorafenib (REG) in patients (pts) with unresectable hepatocellular carcinoma (HCC): Interim analysis of the observational REFINE study. Philippe Merle, Ho Yeong Lim, Richard S. Finn, Masafumi Ikeda, Masatoshi Kudo, Catherine T Frenette, Gianluca Masi, Yoon Jun Kim, René Gerolami, Masayuki Kurosaki, Kazushi Numata, Heinz-Josef Klumpen, Hong Zebger-Gong, Sabine Fiala-Buskies, Kirhan Ozgurdal, Shukui Qin 米国臨床腫瘍学会 ASCO 2019
20. The impact of skeletal muscle loss for hepatocellular carcinoma treated with lenvatinib. Mao Okada, Hiroyuki Nakanishi, Masayuki Kurosaki, Kento Inada, Sakura Kirino, Koji Yamashita, Shuhei Sekiguchi, Yuka Hayakawa, Leona Osawa, Wan Wang, Mayu Higuchi, Kenta Takaura, Chiaki Maeyashiki, Shun Kaneko, Nobuharu Tamaki, Yutaka Yasui, Kaoru Tsuchiya, Jun Itakura, Yuka Takahashi, Namiki Izumi 米国臨床腫瘍学会 ASCO-GI 2019
21. Phase III study of pembrolizumab (pembro) versus best supportive care (BSC) for second-line therapy in advanced hepatocellular carcinoma (aHCC): KEYNOTE-240 Asian subgroup. Masatoshi Kudo, Ho Yeong Lim, Ann-Lii Cheng, Yee Chao, Thomas Yau, Sadahisa Ogasawara, Masayuki Kurosaki, Naoki Morimoto, Kazuyoshi Ohkawa, Tatsuya Yamashita, Kyung-Hun Lee, Erluo Chen, Abby B. Siegel, Baek-Yeol Ryoo 米国臨床腫瘍学会 ASCO-GI 2019
22. The efficacy and safety of lenvatinib in patients with intermediate-stage hepatocellular carcinoma: A nationwide multicenter study in Japan. Kaoru Tsuchiya, Masayuki Kurosaki, Azusa Sakamoto, Hiroyuki Marusawa, Chikara Ogawa, Masahiko Kondo, Kouji Joko, Keiji Tsuji, Hiroyuki Kimura, Shuichi Wada, Haruhiko Kobashi, Yasushi Uchida, Koichiro Furuta, Takehiro Akahane, Atsunori

Kusakabe, Hideo Yoshida, Tomomichi Matsushita, Takehiko Abe, Tetsuro Sohda, Namiki Izumi 米国臨床腫瘍学会 ASCO-GI 2019

23. The efficacy and safety of lenvatinib in patients who did not meet the inclusion criteria of the phase 3 trial (reflect trial) and those with bclc stage b hepatocellular carcinoma - a nationwide multicenter study in japan- A. Sakamoto, M. Kurosaki, K. Tsuchiya, T. Abe, C. Ogawa, T. Soda, H. Kimura, M. Kondo, K. Tsuji, F. Koichiro, M. Shigeno, K. Jyoko, R. Narita, Y. Uchida, H. Yoshida, T. Akahane, H. Kobashi, A. Mitsuda, H. Marusawa, N. Izumi 欧州臨床腫瘍学会 ESMO 2019





12. 日本語総説 (2019 年)

1. 【難治性腹水の対策】腹水 最近の薬物治療 "大澤 玲於奈, 中西 裕之, 黒崎 雅之" 消化器・肝臓内科(2432-3446)7 巻 2 号 Page143-149(2020.02)
2. 【ウイルス肝炎の最新動向】ウイルス肝炎 最近の進歩と今後の課題 "四柳 宏(東京大学医科学研究所先端医療研究センター 感染症分野), 黒崎 雅之, 建石 良介, 松本 晶博" 日本医師会雑誌(0021-4493)148 巻 11 号 Page2129-2143(2020.02)
3. C 型肝炎治療ガイドライン(第 7 版)の改訂について "黒崎 雅之, 田中 篤" 肝臓 (0451-4203)61 巻 2 号 Page37-46(2020.02)
4. 【B 型肝炎 Trends & Topics】B 型肝炎に対する核酸アナログ治療 "桐野 桜, 黒崎 雅之" 臨床消化器内科(0911-601X)35 巻 2 号 Page153-160(2020.01)
5. 【非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD/NASH) の最新知見】NAFLD 診断における線維化・脂肪化評価 NAFLD 診断における線維化・脂肪化評価"玉城 信治, 黒崎 雅之" 日本内科学会雑誌(0021-5384)109 巻 1 号 Page34-41(2020.01)
6. 若手に役立つ議論・オピニオンリーダーからのメッセージ 肝癌を合併した C 型非代償性肝硬変の治療選択 肝癌治療を優先させる症例 "土谷 薫, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝臓クリニカルアップデート(2189-4469)5 巻 2 号 Page193-196(2019.10)
7. 肝炎ウイルス消失後の画像診断と病理 肝炎消失後の画像診断"樋口 麻友, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝臓クリニカルアップデート(2189-4469)5 巻 1 号 Page91-94(2019.05)
8. 【すぐに使える周術期管理マニュアル】術式別の術前・術中・術後管理 肝 肝腫瘍に対する ablation "高浦 健太, 黒崎 雅之" 臨床外科 (0386-9857)74 巻 11 号 Page168-170(2019.10)
9. 【肝胆膵の線維化 up-to-date】肝臓の線維化 臨床・病理 病理標本のコンピュータ解析による肝線維化定量 "安井 豊, 玉城 信治, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝・胆・膵 (0389-4991)79 巻 5 号 Page905-909(2019.11)
10. 【進化する肝細胞癌の薬物療法-2019 Update(Part 2)】免疫チェックポイント阻害剤と抗 VEGF 抗体・TKI との併用療法 LEAP-002 試験(レンバチニブ+パンプロリズマブ)の trial

- design "土谷 薫, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝・胆・膵(0389-4991)79 巻 3 号
Page601-604(2019.09)
11. 【進化する肝細胞癌の薬物療法-2019 Update(Part 2)】免疫チェックポイント阻害剤と抗 VEGF 抗体・TKI との併用療法 アベルマブとアキシチニブの併用療法 phase Ib 試験の結果と解釈 "黒崎 雅之, 泉 並木" 肝・胆・膵 (0389-4991)79 巻 3 号
Page581-585(2019.09)
 12. 【進化する肝細胞癌の薬物療法-2019 Update(Part 1)】レンバチニブ レンバチニブの real-world data 日赤グループの大規模研究より "土谷 薫, 黒崎 雅之, 坂本 梓, 丸澤 宏之, 阿部 毅彦, 小川 力, 早田 哲郎, 木村 浩之, 近藤 雅彦, 泉 並木"
肝・胆・膵(0389-4991)79 巻 2 号 Page222-226(2019.08)
 13. 【B 型肝炎の新たな展開-進化を続ける基礎と臨床-】肝発癌 臨床 核酸アナログ投与と肝発癌 "金子 俊, 黒崎 雅之, 泉 並木" 肝・胆・膵 (0389-4991)78 巻 6 号
Page921-925(2019.06)
 14. 【医薬品副作用学(第 3 版)上-薬剤の安全使用アップデート-】薬効群別副作用 肝疾患治療薬(インターフェロン製剤、核酸アナログ製剤、直接作用型抗ウイルス薬) "金子 俊, 黒崎 雅之, 泉 並木" 日本臨床 (0047-1852)77 巻増刊 3 医薬品副作用学(上)
Page288-293(2019.06)
 15. Sorafenib-regorafenib sequential 療法における biomarker の検討 "土谷 薫, 王 婉, 安井 豊, 桐野 桜, 大澤 玲於奈, 渡壁 慶也, 岡田 真央, 清水 孝夫, 樋口 麻友, 高浦 健太, 金子 俊, 玉城 信治, 中西 裕之, 板倉 潤, 高橋 有香, 黒崎 雅之, 泉 並木"
The Liver Cancer Journal(1883-9347)10 巻 Suppl.2 Page22-24(2018.12)
 16. 【がん診療 Update】肝細胞癌 Multi TKI 時代の肝細胞癌の治療戦略 黒崎 雅之
クニシアン(0387-1541)66 巻 2-3 号 Page291-296(2019.03)
 17. 【肝性脳症治療の変遷】肝性脳症治療の最近の考え方 カルニチン製剤 "中西 裕之, 黒崎 雅之, 大澤 玲於奈, 久保田 洋平, 金子 俊, 玉城 信治, 土谷 薫, 板倉 潤, 泉 並木"
肝・胆・膵(0389-4991)78 巻 3 号 Page397-403(2019.03)

13. 英文原著論文

2016 年

1. Ito K, Yotsuyanagi H, Sugiyama M, Yatsushashi H, Karino Y, Takikawa Y, Saito T, Arase Y, Imazeki F, Kurosaki M, Umemura T, Ichida T, Toyoda H, Yoneda M, Tanaka Y, Mita E, Yamamoto K, Michitaka K, Maeshiro T, Tanuma J, Korenaga M, Murata K, Masaki N, Koike K & Mizokami M. Geographic distribution and characteristics of genotype A hepatitis B virus infection in acute and chronic hepatitis B patients in Japan. J Gastroenterol Hepatol 2016 Jan;31(1):180-9.
2. Nakanishi H, Kurosaki M, Takahashi Y, Itakura J, Ueda K, Suzuki S, Yasui Y, Tamaki N,

- Nakakuki N, Takada H, Ueda M, Hayashi T, Kuwabara K, Takaura K, Higuchi M, Komiyama Y, Yoshida T & Izumi N. Pretreatment Gastric Lavage Reduces Postoperative Bleeding after Endoscopic Submucosal Dissection for Gastric Neoplasms. *PLoS One* 2016; 11:e0149235.
3. Yasui Y, Abe T, Kurosaki M, Higuchi M, Komiyama Y, Yoshida T, Hayashi T, Kuwabara K, Takaura K, Nakakuki N, Takada H, Tamaki N, Suzuki S, Nakanishi H, Tsuchiya K, Itakura J, Takahashi Y, Hashiguchi A, Sakamoto M & Izumi N. Elastin Fiber Accumulation in Liver Correlates with the Development of Hepatocellular Carcinoma. *PLoS One* 2016; 11:e0154558.
 4. Nishida N, Ohashi J, Khor SS, Sugiyama M, Tsuchiura T, Sawai H, Hino K, Honda M, Kaneko S, Yatsushashi H, Yokosuka O, Koike K, Kurosaki M, Izumi N, Korenaga M, Kang JH, Tanaka E, Taketomi A, Eguchi Y, Sakamoto N, Yamamoto K, Tamori A, Sakaida I, Hige S, Itoh Y, Mochida S, Mita E, Takikawa Y, Ide T, Hiasa Y, Kojima H, Nakamura M, Saji H, Sasazuki T, Kanto T, Tokunaga K & Mizokami M. Understanding of HLA-conferred susceptibility to chronic hepatitis B infection requires HLA genotyping-based association analysis. *Sci Rep* 2016; 6:24767.
 5. Joko K, Goto T, Watanabe H, Mitsuda A, Uchida Y, Hasebe C, Tsuruta S, Kimura H, Koike T, Akamatsu T, Mashiba T, Ochi H, Nakamura Y, Tsuchiya K, Kurosaki M & Izumi N. Effects of anti-viral therapy for hepatitis C following treatment of hepatocellular carcinoma: survey findings of the Japanese Red Cross Liver Study Group. *Hepato Res* 2016; 46:251-258.
 6. Nakanishi H, Kurosaki M, Hosokawa T, Takahashi Y, Itakura J, Suzuki S, Yasui Y, Tamaki N, Nakakuki N, Takada H, Higuchi M, Komiyama Y, Yoshida T, Takaura K, Hayashi T, Kuwabara K, Sasaki S & Izumi N. Urinary excretion of the water channel aquaporin 2 correlated with the pharmacological effect of tolvaptan in cirrhotic patients with ascites. *J Gastroenterol* 2016; 51:620-627.
 7. Okanoue T, Shima T, Hasebe C, Karino Y, Imazeki F, Kumada T, Minami M, Imai Y, Yoshihara H, Mita E, Morikawa T, Nishiguchi S, Kawakami Y, Nomura H, Sakisaka S, Kurosaki M, Yatsushashi H, Oketani M, Kohno H, Masumoto A, Ikeda K & Kumada H. Long-term follow-up of peginterferon-alpha-2a treatment of HBeAg-positive and HBeAg-negative chronic hepatitis B patients in phase II and III studies. *Hepato Res* 2016; 46:992-1001.
 8. Kurosaki M, & Izumi N. Tolvaptan for the treatment of refractory ascites *Internal Medicine* 2016; 55:2909-2910.
 9. Nakanishi H, Kurosaki M, Tsuchiya K, Yasui Y, Higuchi M, Yoshida T, Komiyama Y, Takaura K, Hayashi T, Kuwabara K, Nakakuki N, Takada H, Ueda M, Tamaki N, Suzuki S, Itakura J, Takahashi Y & Izumi N. Novel Pretreatment Scoring Incorporating C-reactive Protein to Predict Overall Survival in Advanced Hepatocellular Carcinoma with Sorafenib Treatment. *Liver Cancer* 2016; 5:257-268.
 10. Itakura J, Kurosaki M, Hasebe C, Osaki Y, Joko K, Yagisawa H, Sakita S, Okushin H, Satou T,

Hisai H, Abe T, Tsuji K, Tamada T, Kobashi H, Mitsuda A, Ide Y, Ogawa C, Tsuruta S, Takaguchi K, Murakawa M, Asahina Y, Enomoto N & Izumi N. Complex Pattern of Resistance-Associated Substitutions of Hepatitis C Virus after Daclatasvir/Asunaprevir Treatment Failure. *PLoS One* 2016; 11:e0165339.

11. Asahina Y, Izumi N, Hiromitsu K, Kurosaki M, Koike K, Suzuki F, Takikawa H, Tanaka A, Tanaka E, Tanaka Y, Tsubouchi H, Hayashi N, Hiramatsu N & Yotsuyanagi H. JSH Guidelines for the Management of Hepatitis C Virus Infection: A 2016 update for genotype 1 and 2. *Hepatol Res* 2016; 46:129-165.
12. Midorikawa Y, Takayama T, Higaki T, Nakayama H, Yamamoto M, Ariizumi S, Shimada K, Kokudo N, Tsuji S, Tsuchiya K, Kurosaki M & Izumi N. Early hepatocellular carcinoma as a signaling lesion for subsequent malignancy. *Jpn J Clin Oncol* 2016 Dec;46(12):1102-1107
13. Takada H, Tsuchiya K, Yasui Y, Nakakuki N, Tamaki N, Suzuki S, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Kurosaki M, Asahina Y, Enomoto N & Izumi N. Irregular vascular pattern by contrast-enhanced ultrasonography and high serum Lens culinaris agglutinin-reactive fraction of alpha-fetoprotein level predict poor outcome after successful radiofrequency ablation in patients with early-stage hepatocellular carcinoma. *Cancer Med* 2016 Dec;46(12):1102-1107

2017年

1. Ikeda H, Watanabe T, Okuse C, Matsumoto N, Ishii T, Yamada N, Shigefuku R, Hattori N, Matsunaga K, Nakano H, Hiraishi T, Kobayashi M, Yasuda K, Yamamoto H, Yasuda H, Kurosaki M, Izumi N, Yotsuyanagi H, Suzuki M & Itoh F. Impact of resistance-associated variant dominancy on treatment in patients with HCV genotype 1b receiving daclatasvir/asunaprevir. *J Med Virol* 2017 Jan;89(1):99-105
2. Sakaida I, Terai S, Kurosaki M, Yasuda M, Okada M, Bando K, et al. Effectiveness and safety of tolvaptan in liver cirrhosis patients with edema -Interim Results of Samsca post-mARkeTing surveillance in liver cirrhosis (START study). *Hepatol Res.* 2017 *Hepatol Res.* 2017 Oct;47(11):1137-1146
3. Tamaki N, Kurosaki M, Kusakabe A, Orito E, Joko K, Kojima Y, Kimura H, Uchida Y, Hasebe C, Asahina Y, Izumi N. Hepatitis B Surface Antigen Reduction by Switching from Long-term Nucleoside/nucleotide Analog Administration to Pegylated Interferon. *J Viral Hepat* 2017 24(8):672-678
4. K. Matsuura, H. Sawai, K. Ikeo, S. Ogawa, E. Iio, M. Isogawa, N. Shimada, A. Komori, H. Toyoda, T. Kumada, T. Namisaki, H. Yoshiji, N. Sakamoto, M. Nakagawa, Y. Asahina, M. Kurosaki, N. Izumi, N. Enomoto, A. Kusakabe, E. Kajiwara, Y. Itoh, T. Ide, A. Tamori, M. Matsubara, N. Kawada, K. Shirabe, E. Tomita, M. Honda, S. Kaneko, S. Nishina, A. Suetsugu,

Y. Hiasa, H. Watanabe, T. Genda, I. Sakaida, S. Nishiguchi, K. Takaguchi, E. Tanaka, J. Sugihara, M. Shimada, Y. Kondo, Y. Kawai, K. Kojima, M. Nagasaki, K. Tokunaga and Y. Tanaka. Genome-wide association study identifies a TLL1 variant associated with development of hepatocellular carcinoma after eradication of hepatitis C virus *Gastroenterology* 2017 152(6):1383-1394

5. Tamaki N, Kuno A, Matsuda A, Tsujikawa H, Yamazaki K, Yasui Y, Tsuchiya K, Nakanishi H, Itakura J, Korenaga M, Mizokami M, Kurosaki M, Sakamoto M, Narimatsu H & Izumi N. Serum *Wisteria Floribunda* Agglutinin-Positive Sialylated Mucin 1 as a Marker of Progenitor/Biliary Features in Hepatocellular Carcinoma. *Sci Rep* 2017; 7:244.
6. Komiyama Y, Kurosaki M, Nakanishi H, Takahashi Y, Itakura J, Yasui Y, Tamaki N, Takada H, Higuchi M, Gotou T, Kubota Y, Takaura K, Hayashi T, Oh W, Okada M, Enomoto N, Izumi N. Prediction of diuretic response to tolvaptan by a simple, readily available spot urine Na/K ratio. *PLoS One* 2017;12:e0174649.

2018 年

1. Matsumoto A, Nishiguchi S, Enomoto H, Kang JH, Tanaka Y, Shinkai N, Kurosaki M, Enomoto M, Kanda T, Yokosuka O, Yatsushashi H, Nagaoka S, Okuse C, Kagawa T, Mine T, Takaguchi K, Saito S, Hino K, Ikeda F, Sakisaka S, Morihara D, Miyase S, Tsuge M, Chayama K, Hiramatsu N, Suzuki Y, Murata K, Tanaka E. Combinational use of hepatitis B viral antigens predicts responses to nucleos(t)ide analogue/peg-interferon sequential therapy. *J Gastroenterol* 2018;53:247-257.
2. Suda G, Furusyo N, Toyoda H, Kawakami Y, Ikeda H, Suzuki M, Arataki K, Mori N, Tsuji K, Katamura Y, Takaguchi K, Ishikawa T, Shimada N, Hiraoka A, Yamsaki S, Nakai M, Sho T, Morikawa K, Ogawa K, Kudo M, Nagasaka A, Furuya K, Yamamoto Y, Kato K, Ueno Y, Iio E, Tanaka Y, Kurosaki M, Kumada T, Chayama K, Sakamoto N. Daclatasvir and asunaprevir in hemodialysis patients with hepatitis C virus infection: a nationwide retrospective study in Japan. *J Gastroenterol* 2018;53:119-128.
3. Yasui Y, Tsuchiya K, Kurosaki M, Takeguchi T, Takeguchi Y, Okada M, Wang W, Kubota Y, Goto T, Komiyama Y, Higuchi M, Takaura K, Hayashi T, Takada H, Tamaki N, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Asahina Y, Enomoto N, Himeno Y, Izumi N. Up-to-seven criteria as a useful predictor for tumor downstaging to within Milan criteria and Child-Pugh grade deterioration after initial conventional transarterial chemoembolization. *Hepato Res* 2018;48:442-450.
4. Ashiba T, Joko K, Kurosaki M, Ochi H, Osaki Y, Kojima Y, Nakata R, Goto T, Takehiro A, Kimura H, Mitsuda A, Kawanami C, Uchida Y, Ogawa C, Kusakabe A, Narita R, Ide Y, Abe T, Tsuji K, Kitamura T, Okada K, Sohda T, Shigeno M, Satou T, Izumi N. Does interferon-free direct-acting antiviral therapy for hepatitis C after curative treatment for hepatocellular

- carcinoma lead to unexpected recurrences of HCC? A multicenter study by the Japanese Red Cross Hospital Liver Study Group. *PLoS One* 2018;13:e0194704.
5. Takada H, Kurosaki M, Nakanishi H, Takahashi Y, Itakura J, Tsuchiya K, Yasui Y, Tamaki N, Takaura K, Komiyama Y, Higuchi M, Kubota Y, Wang W, Okada M, Enomoto N, Izumi N. Impact of pre-sarcopenia in sorafenib treatment for advanced hepatocellular carcinoma. *PLoS One* 2018;13:e0198812.
 6. Sawai H, Nishida N, Khor SS, Honda M, Sugiyama M, Baba N, Yamada K, Sawada N, Tsugane S, Koike K, Kondo Y, Yatsuhashi H, Nagaoka S, Taketomi A, Fukai M, Kurosaki M, Izumi N, Kang JH, Murata K, Hino K, Nishina S, Matsumoto A, Tanaka E, Sakamoto N, Ogawa K, Yamamoto K, Tamori A, Yokosuka O, Kanda T, Sakaida I, Itoh Y, Eguchi Y, Oeda S, Mochida S, Yuen MF, Seto WK, Poovorawan Y, Posuwan N, Mizokami M, Tokunaga K. Genome-wide association study identified new susceptible genetic variants in HLA class I region for hepatitis B virus-related hepatocellular carcinoma. *Sci Rep* 2018;8:7958.
 7. Izumi N, Takehara T, Chayama K, Yatsuhashi H, Takaguchi K, Ide T, Kurosaki M, Ueno Y, Toyoda H, Kakizaki S, Tanaka Y, Kawakami Y, Enomoto H, Ikeda F, Jiang D, De-Oertel S, McNabb BL, Camus G, Stamm LM, Brainard DM, McHutchison JG, Mochida S, Mizokami M. Sofosbuvir-velpatasvir plus ribavirin in Japanese patients with genotype 1 or 2 hepatitis C who failed direct-acting antivirals. *Hepatol Int* 2018;12:356-367.
 8. Fujii H, Kimura H, Kurosaki M, Hasebe C, Akahane T, Yagisawa H, Kato K, Yoshida H, Itakura J, Sakita S, Satou T, Okada K, Kusakabe A, Kojima Y, Kondo M, Morita A, Nasu A, Tamada T, Okushin H, Kobashi H, Tsuji K, Joko K, Ogawa C, Uchida Y, Mitsuda A, Sohda T, Ide Y, Izumi N. Efficacy of daclatasvir plus asunaprevir in patients with hepatitis C virus infection undergoing and not undergoing hemodialysis. *Hepatol Res* 2018;48:746-756..
 9. Tsuji K, Kurosaki M, Itakura J, Mori N, Takaki S, Hasebe C, Akahane T, Joko K, Yagisawa H, Takezawa J, Nakata R, Kusakabe A, Kojima Y, Kimura H, Tamada T, Kobashi H, Mitsuda A, Kondou M, Ogawa C, Uchida Y, Sohda T, Narita R, Izumi N. Real-world efficacy and safety of ledipasvir and sofosbuvir in patients with hepatitis C virus genotype 1 infection: a nationwide multicenter study by the Japanese Red Cross Liver Study Group. *J Gastroenterol* 2018;53:1142-1150.
 10. Yasui Y, Kurosaki M, Komiyama Y, Takada H, Tamaki N, Watakabe K, Okada M, Wang W, Shimizu T, Kubota Y, Higuchi M, Takaura K, Tsuchiya K, Nakanishi H, Takahashi Y, Itakura J, Enomoto N, Izumi N. Wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2 binding protein predicts early occurrence of hepatocellular carcinoma after SVR by direct acting antivirals for HCV. *Hepatol Res* 2018;48:1131-1139.

2019 年

1. Suda G, Kurosaki M, Itakura J, Izumi N, Uchida Y, Mochida S, Hasebe C, Abe M, Haga H, Ueno Y, Masakane I, Abe K, Takahashi A, Ohira H, Furuya K, Baba M, Yamamoto Y, Kobayashi T, Kawakami A, Kumagai K, Terasita K, Ohara M, Kawagishi N, Umemura M, Nakai M, Sho T, Natsuizaka M, Morikawa K, Ogawa K, Sakamoto N. Safety and efficacy of elbasvir and grazoprevir in Japanese hemodialysis patients with genotype 1b hepatitis C virus infection. *J Gastroenterol* 2019;54:78-86.
2. Takehara T, Sakamoto N, Nishiguchi S, Ikeda F, Tatsumi T, Ueno Y, Yatsushashi H, Takikawa Y, Kanda T, Sakamoto M, Tamori A, Mita E, Chayama K, Zhang G, De-Oertel S, Dvory-Sobol H, Matsuda T, Stamm LM, Brainard DM, Tanaka Y, Kurosaki M. Efficacy and safety of sofosbuvir-velpatasvir with or without ribavirin in HCV-infected Japanese patients with decompensated cirrhosis: an open-label phase 3 trial. *J Gastroenterol* 2019;54:87-95.
3. Yasui Y, Abe T, Kurosaki M, Matsunaga K, Higuchi M, Tamaki N, Watakabe K, Okada M, Wang W, Shimizu T, Takaura K, Masugi Y, Nakanishi H, Tsuchiya K, Takahashi Y, Itakura J, Sakurai U, Hashiguchi A, Sakamoto M, Izumi N. Non-invasive liver fibrosis assessment correlates with collagen and elastic fiber quantity in patients with hepatitis C. *Hepatol Res* 2019;49:33-41.
4. Takada H, Kurosaki M, Nakanishi H, Takahashi Y, Itakura J, Tsuchiya K, Yasui Y, Tamaki N, Takaura K, Komiyama Y, Higuchi M, Kubota Y, Wang W, Okada M, Shimizu T, Watakabe K, Enomoto N, Izumi N. Real-life experience of lusutrombopag for cirrhotic patients with low platelet counts being prepared for invasive procedures. *PLoS One* 2019;14:e0211122.
5. Akahane T, Kurosaki M, Itakura J, Tsuji K, Joko K, Kimura H, Nasu A, Ogawa C, Kojima Y, Hasebe C, Wada S, Uchida Y, Sohda T, Suzuki H, Yoshida H, Kusakabe A, Tamada T, Kobashi H, Mitsuda A, Kondo M, Shigeno M, Ide Y, Morita A, Kitamura T, Abe T, Izumi N. Real-world efficacy and safety of sofosbuvir + ribavirin for hepatitis C genotype 2: A nationwide multicenter study by the Japanese Red Cross Liver Study Group. *Hepatol Res* 2019;49:264-270.
6. Hidaka H, Kurosaki M, Tanaka H, Kudo M, Abiru S, Igura T, Ishikawa T, Seike M, Katsube T, Ochiai T, Kimura K, Fukuhara T, Kano T, Nagata T, Tanaka K, Kurokawa M, Yamamoto K, Osaki Y, Izumi N, Imawari M. Lusutrombopag Reduces Need for Platelet Transfusion in Patients With Thrombocytopenia Undergoing Invasive Procedures. *Clin Gastroenterol Hepatol* 2019;17:1192-1200.
7. Suda G, Hasebe C, Abe M, Kurosaki M, Itakura J, Izumi N, Uchida Y, Mochida S, Haga H, Ueno Y, Abe K, Takahashi A, Ohira H, Tsukuda Y, Furuya K, Baba M, Yamamoto Y, Kobayashi T, Inoue J, Terasita K, Ohara M, Kawagishi N, Izumi T, Nakai M, Sho T, Natsuizaka M, Morikawa K, Ogawa K, Sakamoto N. Safety and efficacy of glecaprevir and pibrentasvir in Japanese hemodialysis patients with genotype 2 hepatitis C virus infection. *J Gastroenterol* 2019;54:641-649.

8. Tamaki N, Higuchi M, Kurosaki M, Kirino S, Osawa L, Watakabe K, Wang W, Okada M, Shimizu T, Takaura K, Takada H, Kaneko S, Yasui Y, Tsuchiya K, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Enomoto N, Izumi N. Risk assessment of hepatocellular carcinoma development by magnetic resonance elastography in chronic hepatitis C patients who achieved sustained virological responses by direct-acting antivirals. *J Viral Hepat* 2019;26:893-899.
9. Tamaki N, Higuchi M, Kurosaki M, Kirino S, Osawa L, Watakabe K, Wang W, Okada M, Shimizu T, Takaura K, Takada H, Kaneko S, Yasui Y, Tsuchiya K, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Enomoto N, Izumi N. Wisteria floribunda agglutinin-positive mac-2 binding protein as an age-independent fibrosis marker in nonalcoholic fatty liver disease. *Sci Rep* 2019;9:10109.
10. Takada H, Kurosaki M, Tsuchiya K, Komiyama Y, Itakura J, Takahashi Y, Nakanishi H, Yasui Y, Tamaki N, Maeyashiki C, Kaneko S, Takaura K, Higuchi M, Okada M, Wang W, Osawa L, Sekiguchi S, Hayakawa Y, Yamashita K, Enomoto N, Izumi N. Baseline and Early Predictors of Good Patient Candidates for Second-Line after Sorafenib Treatment in Unresectable Hepatocellular Carcinoma. *Cancers (Basel)* 2019;11 (9). pii: E1256. doi: 10.3390/cancers11091256.
11. Higuchi M, Tamaki N, Kurosaki M, Watakabe K, Osawa L, Wang W, Okada M, Shimizu T, Takaura K, Takada H, Kaneko S, Yasui Y, Tsuchiya K, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Izumi N. Prediction of Hepatocellular Carcinoma After Sustained Virological Responses Using Magnetic Resonance Elastography. *Clin Gastroenterol Hepatol* 2019;17:2616-2618.
12. Kaneko S, Kurosaki M, Tamaki N, Itakura J, Hayashi T, Kirino S, Osawa L, Watakabe K, Okada M, Wang W, Shimizu T, Higuchi M, Takaura K, Yasui Y, Tsuchiya K, Nakanishi H, Takahashi Y, Watanabe M, Izumi N. Tenofovir alafenamide for hepatitis B virus infection including switching therapy from tenofovir disoproxil fumarate. *J Gastroenterol Hepatol* 2019;34:2004-2010.
13. Mashiba T, Joko K, Kurosaki M, Ochi H, Hasebe C, Akahane T, Sohda T, Tsuji K, Mitsuda A, Kimura H, Narita R, Ogawa C, Furuta K, Shigeno M, Okushin H, Ito H, Kusakabe A, Satou T, Kawanami C, Nakata R, Kobashi H, Tamada T, Ide Y, Yagisawa H, Morita A, Matsushita T, Okada K, Izumi N. Real-world efficacy of elbasvir and grazoprevir for hepatitis C virus (genotype 1): A nationwide, multicenter study by the Japanese Red Cross Hospital Liver Study Group. *Hepatol Res* 2019;49:1114-1120.
14. Kusakabe A, Kurosaki M, Itakura J, Joko K, Akahane T, Tsuji K, Kobashi H, Sohda T, Kimura H, Narita R, Furuta K, Izumi N. Efficacy and safety of glecaprevir/pibrentasvir as retreatment therapy for patients with genotype 2 chronic hepatitis C who failed prior sofosbuvir plus ribavirin regimen. *Hepatol Res* 2019;49:1121-1126.
15. Wang W, Tsuchiya K, Kurosaki M, Yasui Y, Inada K, Kirino S, Yamashita K, Sekiguchi S, Hayakawa Y, Osawa L, Okada M, Higuchi M, Takaura K, Maeyashiki C, Kaneko S, Tamaki N, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Asahina Y, Enomoto N, Izumi N. Sorafenib-Regorafenib

Sequential Therapy in Japanese Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma-Relative Dose Intensity and Post-Regorafenib Therapies in Real World Practice. *Cancers (Basel)* 2019;11 (10). pii: E1517. doi: 10.3390/cancers11101517.

16. Tamaki N, Kurosaki M, Kirino S, Yamashita K, Osawa L, Sekiguchi S, Hayakawa Y, Wang W, Okada M, Higuchi M, Takaura K, Maeyashiki C, Kaneko S, Yasui Y, Tsuchiya K, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Enomoto N, Izumi N. Hepatitis B surface antigen reduction as a result of switching from long-term entecavir administration to tenofovir. *JGH open* 2019 doi:10.1002/jgh3.12273

2020 年

1. Kaneko S, Tsuchiya K, Kurosaki M, Kirino S, Inada K, Yamashita K, Osawa L, et al. The three criteria for radiological response on survival in patients with hepatocellular carcinoma treated with lenvatinib. *Hepatol Res* 2020 Jan;50(1):137-143.
2. Yang HI, Yeh ML, Wong GL, Peng CY, Chen CH, Trinh HN, Cheung KS, Xie Q, Su TH, Kozuka R, Lee DH, Ogawa E, Zhao C, Ning HB, Huang R, Li J, Zhang JQ, Ide T, Xing H, Iwane S, Takahashi H, Wong C, Lin CH, Hoang J, Le A, Henry L, Toyoda H, Ueno Y, Gane EJ, Eguchi Y, Kurosaki M, Wu C, Liu C, Shang J, Furusyo N, Enomoto M, Kao JH, Yuen MF, Yu ML, Nguyen MH. Real-World Effectiveness From the Asia Pacific Rim Liver Consortium for HBV Risk Score for the Prediction of Hepatocellular Carcinoma in Chronic Hepatitis B Patients Treated With Oral Antiviral Therapy. *J Infect Dis* 2020;221:389-399.
3. Enomoto H, Ueno Y, Hiasa Y, Nishikawa H, Hige S, Takikawa Y, Taniai M, Ishikawa T, Yasui K, Takaki A, Takaguchi K, Ido A, Kurosaki M, Kanto T, Nishiguchi S. Transition in the etiology of liver cirrhosis in Japan: a nationwide survey. *J Gastroenterol* 2020;55:353-362.
4. Shimizu T, Tsuchiya K, Kurosaki M, Yasui Y, Kirino S, Watakabe K, Osawa L, Okada M, Wang W, Higuchi M, Takaura K, Kaneko S, Tamaki N, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Hisamatsu T, Izumi N. Distinctive magnetic resonance imaging findings of hepatocellular carcinoma after hepatitis C virus eradication with direct-acting antivirals. *Hepatoma Res* 2020;6:12
5. Kirino S, Tsuchiya K, Kurosaki M, Kaneko S, Inada K, Yamashita K, Osawa L, Hayakawa Y, Sekiguchi S, Okada M, Wang W, Higuchi M, Takaura K, Maeyashiki C, Tamaki N, Yasui Y, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Asahina Y, Izumi N. Relative dose intensity over the first four weeks of lenvatinib therapy is a factor of favorable response and overall survival in patients with unresectable hepatocellular carcinoma. *PLoS One* 2020;15:e0231828.
6. Kirino S, Tamaki N, Kaneko S, Kurosaki M, Inada K, Yamashita K, Osawa L, Hayakawa Y, Sekiguchi S, Watakabe K, Okada M, Wang W, Shimizu T, Higuchi M, Takaura K, Maeyashiki C, Yasui Y, Nakanishi H, Tsuchiya K, Itakura J, Takahashi Y, Izumi N. Validation of hepatocellular carcinoma risk scores in Japanese chronic hepatitis B cohort receiving nucleot(s)ide analog. *J*

Gastroenterol Hepatol 2020 in press.

7. Tamaki N, Kurosaki M, Nakanishi H, Itakura J, Inada K, Kirino S, Yamashita K, Osawa L, Sekiguchi S, Hayakawa Y, Wang W, Okada M, Higuchi M, Takaura K, Maeyashiki C, Kaneko S, Yasui Y, Tsuchiya K, Takahashi Y, Izumi N. Comparison of medication adherence and satisfaction between entecavir and tenofovir alafenamide therapy in chronic hepatitis B. *J Med Virol* 2020 in press.
8. Takehara T, Chayama K, Kurosaki M, Yatsushashi H, Tanaka Y, Hiramatsu N, Sakamoto N, Asahina Y, Nozaki A, Nakano T, Hagiwara Y, Shimizu H, Yoshida H, Huang Y, Biermer M, Vijgen L, Hayashi N. JNJ-4178 (adafosbuvir, odalasvir, and simeprevir) in Japanese patients with chronic hepatitis C virus genotype 1 or 2 infection with or without compensated cirrhosis: the Phase IIa OMEGA-3 study. *J Gastroenterol* 2020 in press.
9. Hayashi T, Tamaki N, Kurosaki M, Wang W, Okada M, Higuchi M, Takaura K, Takada H, Yasui Y, Tsuchiya K, Nakanishi H, Itakura J, Harada M, Izumi N. Use of the Serum Wisteria floribunda Agglutinin-Positive Mac2 Binding Protein as a Marker of Gastroesophageal Varices and Liver-Related Events in Chronic Hepatitis C Patients. *Diagnostics (Basel)* 2020;10. in press.
10. Sakaida I, Terai S, Kurosaki M, Okada M, Hirano T, Fukuta Y. Real-world effectiveness and safety of tolvaptan in liver cirrhosis patients with hepatic edema: results from a post-marketing surveillance study (START study). *J Gastroenterol* 2020. in press.